

# 沖縄県における令和元年（2019年）の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所  
衛生生物班  
福地斉志・喜屋武向子

**要旨：**沖縄県における令和元年（2019年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 30 件，ヒメハブ咬症 6 件，サキシマハブ咬症 18 件，タイワンハブ咬症 1 件の計 55 件であった。昨年と同様、今年もガラスヒバアやウミヘビ類等のハブ類以外の毒蛇による咬症事故は確認されず、咬症による死亡者の報告もなかった。受傷場所は多い順に、屋敷内 19 件，畑 15 件，道路 10 件，山林草地及び不明で各 4 件，その他 3 件であった。屋敷内・畑など、県民が日常生活を営んでいる場所での事故が多い。ハブ類咬症件数は年々減少傾向にあるが、例年同様に畑や屋敷、道路等の人の生活圏における咬症の割合が高く、日頃の対策が重要である。

## I はじめに

沖縄県では、毎年ハブ類などの毒ヘビによる咬症被害が発生し、本土復帰前には年に 400 件以上に上り、死亡例も数件発生した。しかし近年での咬症件数は年に 60 件前後を推移し、死亡例も平成 11 年（1999 年）を最後に発生していない。

県内における毒蛇による咬症件数は平成 30 年（2018 年）の 49 件から、令和元年（2019 年）は 55 件と 6 件増加した。最近 10 年間（2010 年-2019 年）のハブ類咬症の傾向をみると、1 年間あたりのハブ咬症は 30～60 件前後、サキシマハブ咬症は 15～30 件前後とほぼ横ばい、ヒメハブ咬症は平成 24 年（2012 年）を除き 10 件を下まわっている。外来種であるタイワンハブ咬症は 0～3 件と断続的に発生している。

本県では毒ヘビによる咬症被害の予防を図るため、1964 年から毎年被害の実態調査を行っている。今回は、令和元年に報告された毒ヘビ咬症被害状況について報告する。

## II 調査方法

沖縄県内で発生したハブ類咬症患者情報は、治療を施した医療機関から所管の保健所を通じ毎月衛生業務課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される（はぶ抗毒素支給規程（昭和 47 年 9 月 14 日告示 105 号）第 10 条）。さらに、その医療機関の協力によって「ハブ咬症患者調査票」（図-8）に基づき、咬症に関する詳細を患者から聞き取り、保健所を通じて沖縄県衛生環境研究所に報告される。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキ

シマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。このような蛇の種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブによる咬症として集計した。

## III 結果および考察

### 1. ハブ咬症

令和元年のハブ咬症件数は昨年より 3 件減少の 30 件だった（表-1）。1964 年から累計し 9176 件となった（表-2）。

ハブ咬症の市町村別の内訳は、うるま市の 4 件が最も多く、次いで今帰仁村の 3 件、本部町、名護市、浦添市、八重瀬町、南風原町、久米島町及び那覇市の各 2 件、国頭村、大宜味村、伊江村、宜野座村、読谷村、嘉手納町、沖縄市及び南城市の各 1 件であった。また、市町村不明は 1 件であった（表-3 の 1）。過去 10 年間の報告件数はうるま市が最も多かった（表-4 の 1）。

### 2. ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は国頭村で 2 件、東村、今帰仁村、南城市及び名護市で各 1 件あった（表-3 の 2）。

ヒメハブの毒はハブよりも弱いため、重症になることが少ない。また、これまでヒメハブ咬症者の死亡記録はない。過去 10 年間の報告件数は国頭村、本部町及び名護市が最も多かった（表-4 の 2）。

### 3. サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、竹富町で14件、石垣市で3件、糸満市で1件の計18件となり昨年に比べ5件増加した(表-3の3)。サキシマハブはハブより毒が弱く、治療の際に血清を使わない事が多い。過去10年間の報告件数は石垣市が最も多かった(表-4の3)。

#### 4. タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症は、名護市の1件であった(表-3の4)。過去10年間の報告件数は名護市が最も多かった(表-4の4)。

#### 5. 毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬症時、咬まれた人がその蛇を目撃するのは全体の半数に満たない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中または夜間の暗がりの中で起こるためである。さらに、蛇を目撃した場合でも種類を判別できないことが多い。

蛇の種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が1種類のみ八重山地方ではサキシマハブと判断できる。一方、沖縄本島とその周辺離島で蛇に咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高く、次いでヒメハブの可能性がある。

県内に生息する毒蛇の1種であるガラスヒバアは、ナミヘビ科ヒバカリ属に分類され、毒蛇とされる<sup>1) 2)</sup>。ガラスヒバアは1987年の咬症事例<sup>3)</sup>から同じナミヘビ科のヤマカガシ(ナミヘビ科ヤマカガシ属)の毒に類似するものと推測されるが、毒に関する詳細な文献資料が少なく明確な毒性は不明である。当研究所で確認できた咬症被害は1987年の事例のみである。

ネズミを主な餌とするハブは人間の生活圏と生息域が交錯するが、カエルを主な餌とするガラスヒバアは水辺に生息し、人間との接触はかなり少ない。

攻撃的で人間を咬むこともあるアカマタは、生息域がハブ類と共通である。咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口がU字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛みの症状を伴わないことからアカマタなどの無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの3種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名護市の一部とその周辺及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定着している<sup>4)</sup>。

ハブの近縁種であるサキシマハブおよびタイワンハブによる咬症は、既存のハブ抗毒素が有効であることが動物実験で確認されている<sup>5)</sup>。

タイコブラは1993年頃に捕獲された以外は20年以上

目撃及び捕獲がないことから、定着していないと考えられる。

#### 6. 月別咬症件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える傾向がある。

令和元年は、ハブ咬症は4月と6月が各5件で最も多く、次いで7月に4件、5月に3件、2月、3月、9月、10月、11月及び12月に各2件、8月に1件の順であった。ヒメハブ咬症は1月、3月、6月、8月、9月及び10月に各1件発生した。サキシマハブ咬症は4月、5月及び10月に各3件と最も多く、次いで1月に2件、3月、6月、7月、8月、9月、11月及び12月に各1件発生した。タイワンハブ咬症は1月に1件発生した(表-5、図-5)。

#### 7. 保健所別咬症件数

ハブ類4種合計の保健所別届出数は、八重山保健所の17件が最も多く、次いで北部保健所の15件、南部保健所の13件、中部保健所の10件であった(表-6)。

#### 8. 場所別の咬症発生件数

令和元年のハブ咬症は、庭を含む屋敷内での咬症件数で12件、畑で6件、道路で5件、その他で3件、山林草地及び不明で各2件となった。ヒメハブ咬症は、屋敷内及び畑で各2件、山林草地及び不明で各1件であった。サキシマハブ咬症は、畑が7件と最も多く、次いで道路が5件、屋敷内が4件、山林草地及び不明で各1件であった。タイワンハブ咬症は、屋敷内で1件であった。ハブ類4種の合計では屋敷内が19件で最も多く、次いで畑で15件、道路で10件、山林草地及び不明で各4件、その他が3件であった(表-7)。

#### 9. 行動別咬症件数

行動別に咬症報告を見ると通行中が18件と最も多く、次いで農作業中12件、草刈り及び野外の他の動作が各8件とほとんどが野外での活動中であった(表-8)。

#### 10. 時刻別咬症件数

ハブ類が夜行性であるにもかかわらず、ハブ類咬症は日中にも多くみられる(表-9、図-6)。屋敷内では幅広い時間帯で咬症があり、畑では人が活動を行う日中に、道路では夜間に咬症が多くみられる。

#### 10. 咬症部位

ハブでは、上肢指12件、足8件、下腿4件、手及び下肢指で各3件、前腕2件であった。ヒメハブは上肢指3件、

下肢指 2 件, 下腿 1 件であった。サキシマハブは, 上肢指及び足で各 5 件, 手及び下肢指で各 2 件, 前腕, 下腿, 大腿及び軀幹で各 1 件であった。タイワンハブは, 上肢指 1 件であった (表-10)。

#### 11. 年代別, 性別咬症件数

4 種類の合計でみると, 10 代から 80 代までと幅広い範囲で被害がみられた (表-11, 図-7)。

咬症患者の性比は, 男性 41 名, 女性 14 名であった。

## IV まとめ

沖縄県における令和元年 (2019 年) の毒蛇咬症患者はハブ咬症 30 件, ヒメハブ咬症 6 件, サキシマハブ咬症 18 件, タイワンハブ咬症 1 件の計 55 件であった。ハブ類 4 種合計の場所別咬症件数は, 屋敷内 19 件, 畑 15 件, 道路 10 件, 山林草地及び不明で各 4 件, その他で 3 件あった。

畑や屋敷全体など, 人の生活圏における咬症事例が多いことから, 日頃の対策が重要である。

### <謝辞>

当該調査にあたっては咬症患者様及びその関係者の方々にはじまり, 各医療機関の方々, ならびに各保健所職員には調査票の記入・報告等大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

## V 参考文献

- 1) 高田榮一, 大谷 勉, 「原色爬虫類両性類検索図鑑」北隆館
- 2) Y. Tomihara, Y. Kawamura, K. Yonaha, M. Nozaki, M. Yamakawa, C. Yoshida. Neutralization of hemorrhagic snake venoms by sera of *Trimeresurus flavoviridis* (Habu), *Herpestes edwardsii* (mongoose) and *Dinodon semicarinatus* (Akamata). *Toxicon*, 1990;28 (8) :989-91
- 3) 上江洲由美子・寺田考紀・大城聡子・盛根信也「過去のガラスヒバア咬症について」平成 24 年度抗毒素研究報告書, 61
- 4) 寺田考紀, 「沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策」, 爬虫両生類学会報, 2011 (2), 特集: 爬虫両生類における外来生物問題とその対策, 161-168
- 5) 野崎真敏・香村昂男・勝連盛輝, 「沖縄県へ移入された蛇の毒素について」, 平成 6 年度抗毒素研究報告書, 8

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ		サキシマハブ		ヒメハブ	台湾ハブ	計	
	件数	死	件数	死	件数	件数	件数	死
10	48	0	21	0	9	1	79	0
11	62	0	18	0	5	3	88	0
12	46	0	33	0	12	1	92	0
13	42	0	20	0	7	3	72	0
14	29	0	18	0	7	0	54	0
15	23	0	36	0	5	3	67	0
16	37	0	13	0	5	1	56	0
17	35	0	20	0	5	2	62	0
18	33	0	13	0	2	1	49	0
19	30	0	18	0	6	1	55	0
計	386	0	209	0	63	16	674	0

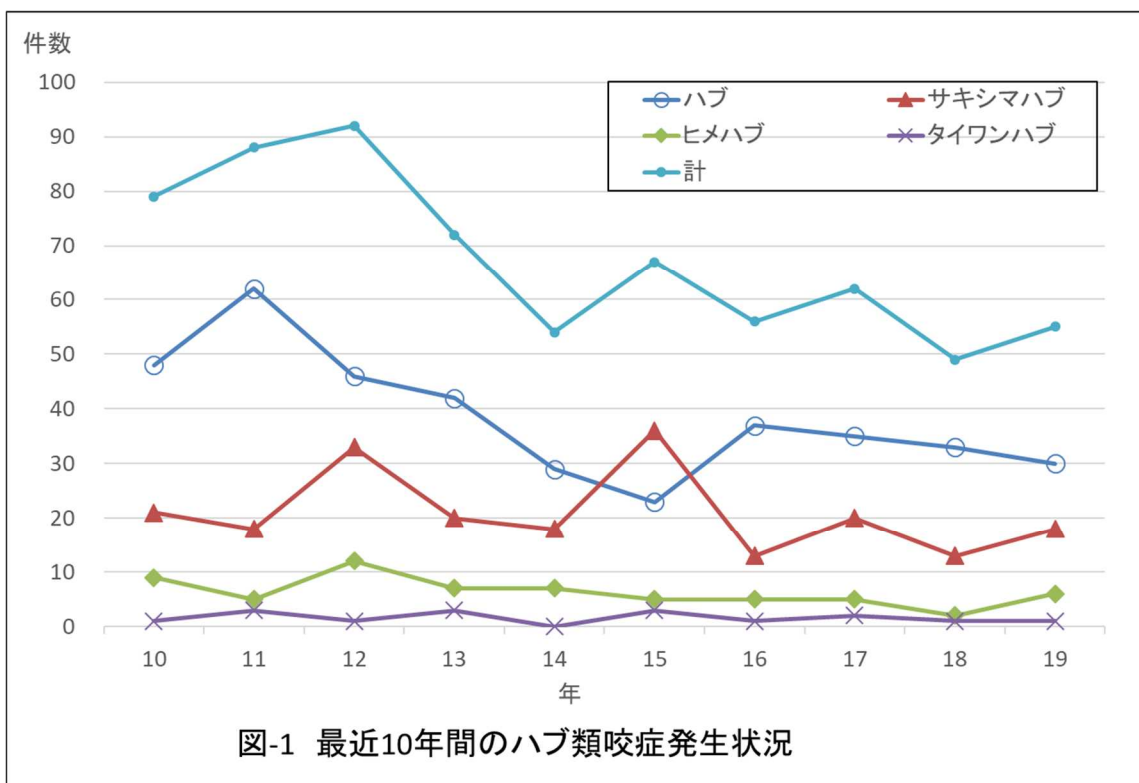


表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

種年	ハブ	死亡 件数	サキシマ ハブ	死亡 件数	ヒメ ハブ	台湾 ハブ	ハブ類 咬症合計	ウミヘビ 類	コブラ	ガラス ヒバア
64	424	4	0	0	0	0	424	0	0	0
65	350	7	85	0	0	0	435	0	0	0
66	357	2	121	0	1	0	479	0	0	0
67	389	5	160	0	0	0	549	0	0	0
68	351	6	167	0	1	0	519	0	0	0
69	323	4	150	0	0	0	473	0	0	0
70	321	1	137	0	0	0	458	0	0	0
71	326	2	111	0	0	0	437	0	0	0
72	239	1	71	0	0	0	310	0	0	0
73	374	6	36	0	0	0	410	0	0	0
74	306	0	31	0	0	0	337	0	0	0
75	299	3	60	0	0	0	359	0	0	0
76	268	0	45	0	0	0	313	0	0	0
77	292	2	37	0	0	0	329	0	0	0
78	283	4	48	0	0	0	331	0	1	1
79	254	0	71	1	0	0	325	0	0	0
80	226	1	56	0	1	0	283	1	0	0
81	210	0	57	0	0	0	267	0	0	0
82	183	0	80	0	7	1	271	0	0	0
83	156	0	37	0	4	0	197	0	0	0
84	188	0	47	0	3	0	238	0	0	0
85	184	0	38	0	21	1	244	0	0	0
86	180	0	31	0	14	0	225	0	0	0
87	208	0	33	0	21	0	262	0	0	0
88	174	0	39	0	17	0	230	0	0	0
89	179	2	33	0	18	0	230	1	0	0
90	157	1	42	0	15	0	214	2	0	0
91	170	0	39	0	21	0	230	0	0	0
92	86	1	37	0	28	0	151	0	1	0
93	103	0	40	0	18	0	161	0	0	0
94	100	0	44	0	15	0	159	0	0	0
95	124	0	42	0	15	0	181	0	0	0
96	104	0	25	0	8	0	137	0	0	0
97	109	0	23	0	14	0	146	0	0	0
98	93	0	28	0	18	0	139	0	0	0
99	81	1	27	0	7	0	115	0	0	0
00	82	0	36	0	17	0	135	0	0	0
01	61	0	30	0	6	0	97	0	0	0
02	61	0	32	0	9	0	102	0	0	0
03	63	0	23	0	7	0	93	0	0	0
04	43	0	22	0	3	0	68	0	0	0
05	67	0	26	0	13	2	108	0	0	0
06	62	0	30	0	10	2	104	2	0	0
07	61	0	27	0	8	0	96	0	0	0
08	65	0	21	0	8	1	95	1	0	0
09	55	0	33	0	7	1	96	0	0	0
10	48	0	21	0	9	1	79	0	0	0
11	62	0	18	0	5	3	88	0	0	0
12	46	0	33	0	12	1	92	0	0	0
13	42	0	20	0	7	3	72	0	0	0
14	29	0	18	0	7	0	54	0	0	0
15	23	0	36	0	5	3	67	0	0	0
16	37	0	13	0	5	1	56	0	0	0
17	35	0	20	0	5	2	62	0	0	0
18	33	0	13	0	2	1	49	0	0	0
19	30	0	18	0	6	1	55	0	0	0
計	9176	53	2618	1	418	24	12236	7	2	1

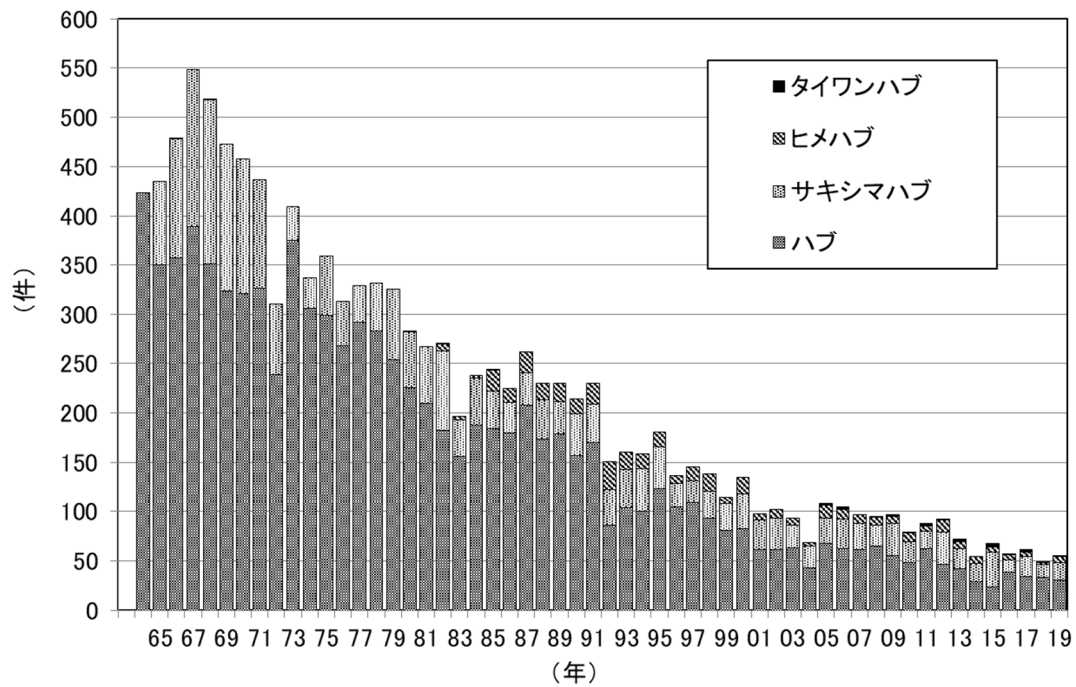


図-2 沖縄県のハブ類咬症の推移

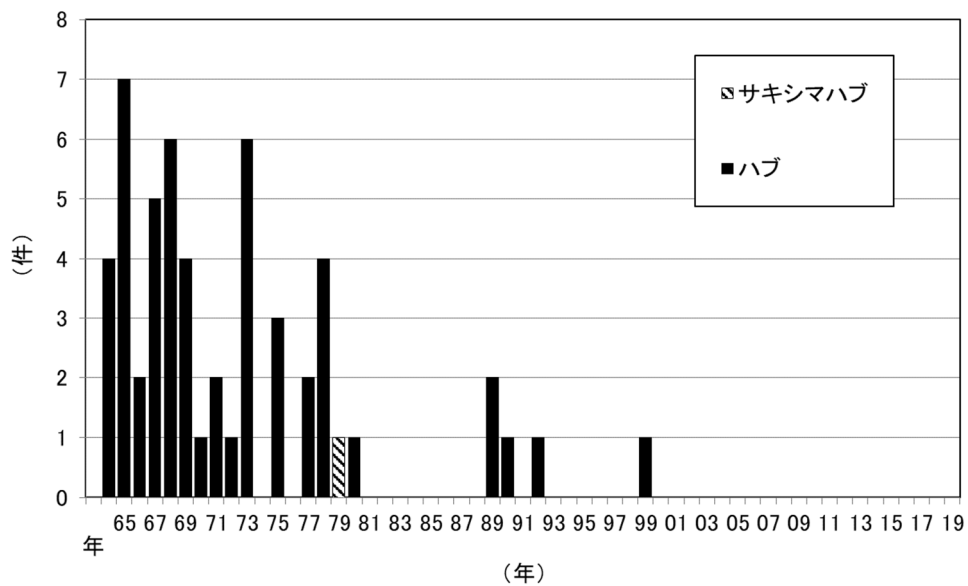


図-3 ハブ類咬症死亡件数の経年



表-4 最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数  
1.ハブ咬症

年	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
国頭村	4	3	6	4	0	0	1	5	0	1	24
大宜味村	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	6
東村	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4
今帰仁村	0	1	1	2	2	1	1	1	3	3	15
本部町	1	2	0	0	0	0	2	1	0	2	8
名護市	3	4	4	2	4	4	1	4	4	2	32
伊江村	2	1	2	0	0	0	0	1	1	1	8
伊平屋村	0	1	2	1	0	0	2	0	1	0	7
宜野座村	0	0	1	2	0	1	0	0	1	1	6
恩納村	1	0	0	1	0	1	1	1	1	0	6
金武町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
うるま市	8	9	3	7	1	1	3	3	3	4	42
読谷村	2	3	0	3	2	1	1	1	1	1	15
嘉手納町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
北谷町	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
沖繩市	0	0	2	0	2	0	0	1	1	1	7
北中城村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
宜野湾市	1	3	1	2	1	0	0	0	1	0	9
中城村	0	5	0	1	0	0	1	4	1	0	12
西原町	0	1	2	0	0	1	1	1	1	0	7
浦添市	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4
豊見城市	0	2	0	0	1	2	3	1	1	0	10
糸満市	9	7	7	3	2	1	5	1	1	0	36
八重瀬町	東風平町★	2	3	3	3	3	0	3	0	1	20
	具志頭村★										
南城市	玉城村☆	4	2	1	4	2	2	4	1	2	23
	知念村☆										
	佐敷町☆										
	大里村☆										
南風原町	1	4	1	0	0	1	1	1	0	2	11
与那原町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡嘉敷村	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
久米島町	4	5	5	3	4	4	2	4	1	2	34
渡名喜村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
那覇市	1	2	3	0	2	1	3	2	2	2	18
不明	1	1	0	2	3	1	0	1	4	1	14
計	48	62	46	42	29	23	37	35	33	30	385

2.ヒメハブ咬症

年	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
国頭村	2	0	3	0	1	0	0	0	1	2	9
東村	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	4
今帰仁村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大宜味村	2	0	1	1	2	0	1	0	1	0	8
本部町	1	1	2	0	1	1	1	2	0	0	9
伊平屋村	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
名護市	0	0	2	1	2	0	2	1	0	1	9
宜野座村	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
読谷村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
沖繩市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
金武町	0	2	1	0	0	3	0	0	0	0	6
うるま市	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
与那原町	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
南城市	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	4
糸満市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計	9	5	12	7	7	5	5	5	2	6	63

3.サキシマハブ咬症

年	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
石垣市	17	11	22	13	6	26	9	15	12	3	134
竹富町	4	6	10	4	7	9	2	4	0	14	60
糸満市	0	1	1	3	0	1	2	1	1	1	11
不明	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
計	21	18	33	20	18	36	13	20	13	18	210

4.タイワンハブ咬症

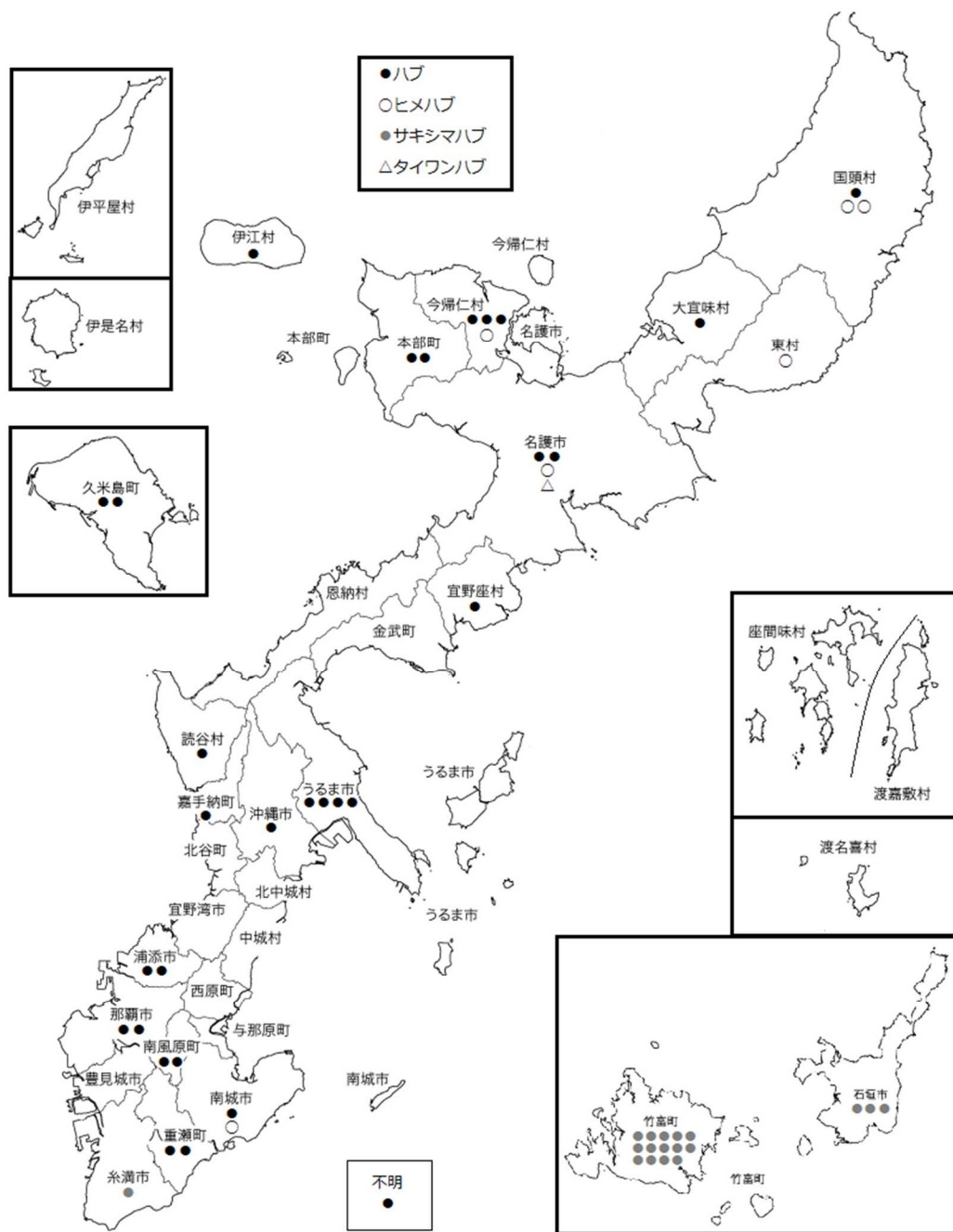
年	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
本部町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
名護市	1	2	1	1	0	1	0	1	1	1	9
今帰仁村	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	4
恩納村	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
(※)宜野座村	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	1	3	1	3	0	3	1	2	1	1	16

(※)タイワンハブ疑い例

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため、2006年以降のデータはまとめている

☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市となったため、2006年以降のデータはまとめている





http://technocco.jp  
  
 TECHNOCCO IMAGE FACTORY

この地図の作成に当っては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を使用した  
 （承認番号 平22業使、第632号）

図-4 2019年市町村別ハブ類咬症件数

表-5 2019年月別ハブ類咬症件数

加害動物\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ	0	2	2	5	3	5	4	1	2	2	2	2	30
サキシマハブ	2	0	1	3	3	1	1	1	1	3	1	1	18
ヒメハブ	1	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	6
タイワンハブ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	4	2	4	8	6	7	5	3	4	6	3	3	55

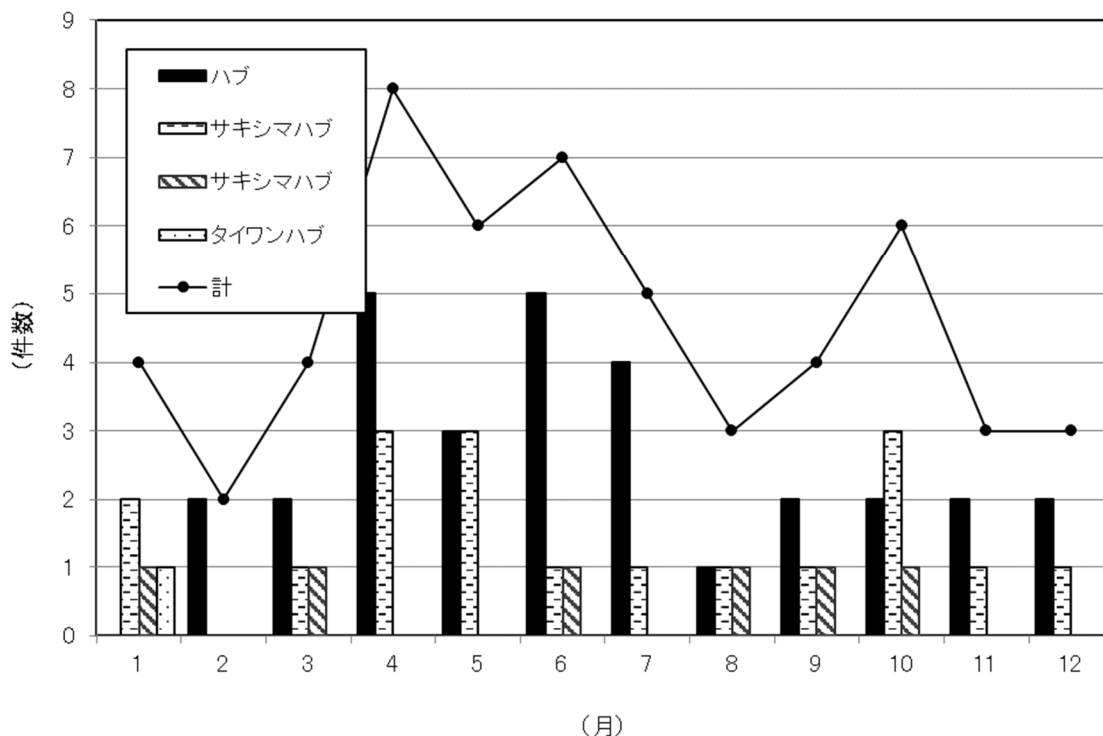


図-5 2019年月別ハブ類咬症件数

表-6 2019年届出保健所別ハブ類咬症件数

保健所名	加害動物\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部保健所	ハブ	0	1	0	1	0	2	2	1	0	1	0	1	9
	ヒメハブ	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	5
	タイワンハブ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	2	1	0	1	0	3	2	2	1	2	0	1	15
中部保健所	ハブ	0	0	1	1	3	1	0	0	1	1	2	0	10
	計	0	0	1	1	3	1	0	0	1	1	2	0	10
南部保健所	ハブ	0	1	1	3	0	2	2	0	1	0	0	1	11
	サキシマハブ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒメハブ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	1	1	2	3	0	2	2	0	1	0	0	1	13
八重山保健所	サキシマハブ	1	0	1	3	3	1	1	1	1	3	1	1	17
	計	1	0	1	3	3	1	1	1	1	3	1	1	17
計		4	2	4	8	6	7	5	3	4	6	3	3	55

表-7 2019年場所別ハブ類咬症件数

場所\加害動物	ハブ	サキシマ ハブ	ヒメハブ	タイワン ハブ	計
屋敷内	12	4	2	1	19
畑	6	7	2	0	15
道路	5	5	0	0	10
山林・草地	2	1	1	0	4
その他	3	0	0	0	3
不明	2	1	1	0	4
計	30	18	6	1	55

表-8 2019年被害者の行動別ハブ類咬症件数

行動\加害動物	ハブ	サキシマ ハブ	ヒメハブ	タイワン ハブ	計
通行中	10	8	0	0	18
農作業中	6	4	2	0	12
草刈り中	4	3	1	0	8
野外の他の動作	5	0	3	0	8
ハブ扱い中	1	1	0	0	2
室内の他の動作	1	0	0	0	1
用便中	1	0	0	0	1
不明	2	2	0	1	5
計	30	18	6	1	55

表-9 2019年場所及び時刻別ハブ類咬症件数(4種計)

場所\時刻	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋敷内	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	3	0	0	3	3	0	19
畑	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	15
道路	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	1	0	10
山林・草地	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
計	0	2	2	1	1	1	2	1	2	2	4	2	4	3	3	2	2	4	3	3	4	6	1	55

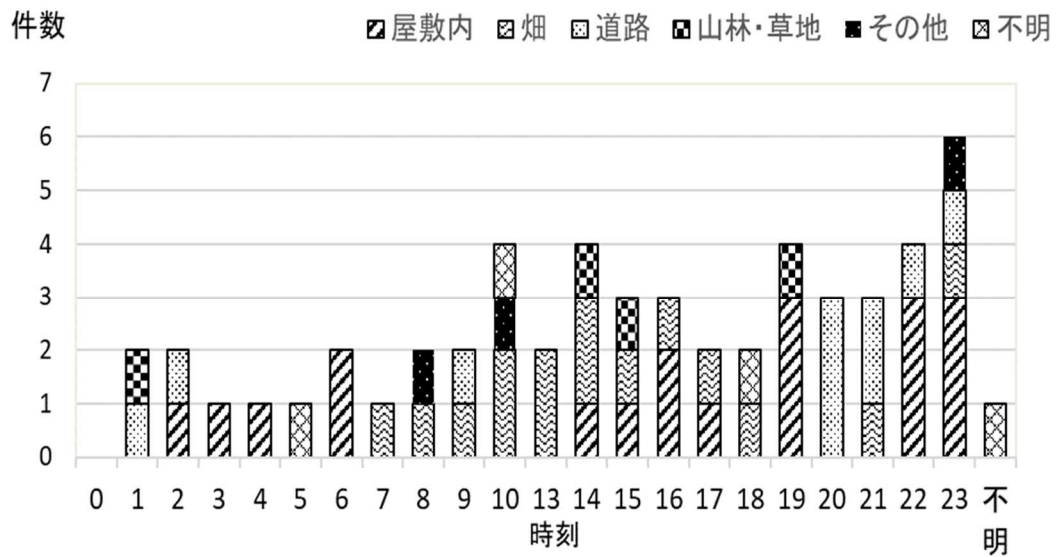


図-6 2019年場所及び時刻別ハブ類咬症件数(4種計)

表-10 2019年部位別ハブ類咬症件数

部位\加害動物		ハブ	サキシマハブ	ヒメハブ	タイワンハブ	計
上肢	指	12	5	3	1	21
	手	3	2	0	0	5
	前腕	2	1	0	0	3
	上腕	0	0	0	0	0
下肢	指	3	2	0	0	5
	足	8	5	2	0	15
	下腿	4	1	1	0	6
	大腿	0	1	0	0	1
	頭部	0	0	0	0	0
	躯幹	0	1	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0
計		32	18	6	1	57

※1件で2カ所咬まれる事例が2例あったため、計57となっている

表-11 2019年年別ハブ類咬症件数

種類	性別\年代	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
ハブ	男	0	1	3	1	6	0	7	5	1	24
	女	0	0	0	0	0	1	1	3	1	6
	計	0	1	3	1	6	1	8	8	2	30
サキシマ ハブ	男	0	0	2	2	2	2	3	0	0	11
	女	0	0	1	2	1	1	1	0	1	7
	計	0	0	3	4	3	3	4	0	1	18
ヒメハブ	男	0	1	0	1	1	0	1	0	1	5
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	計	0	1	0	1	1	0	1	1	1	6
台湾 ハブ	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
4種計	男	0	2	5	4	9	3	11	5	2	41
	女	0	0	1	2	1	2	2	4	2	14
	計	0	2	6	6	10	5	13	9	4	55

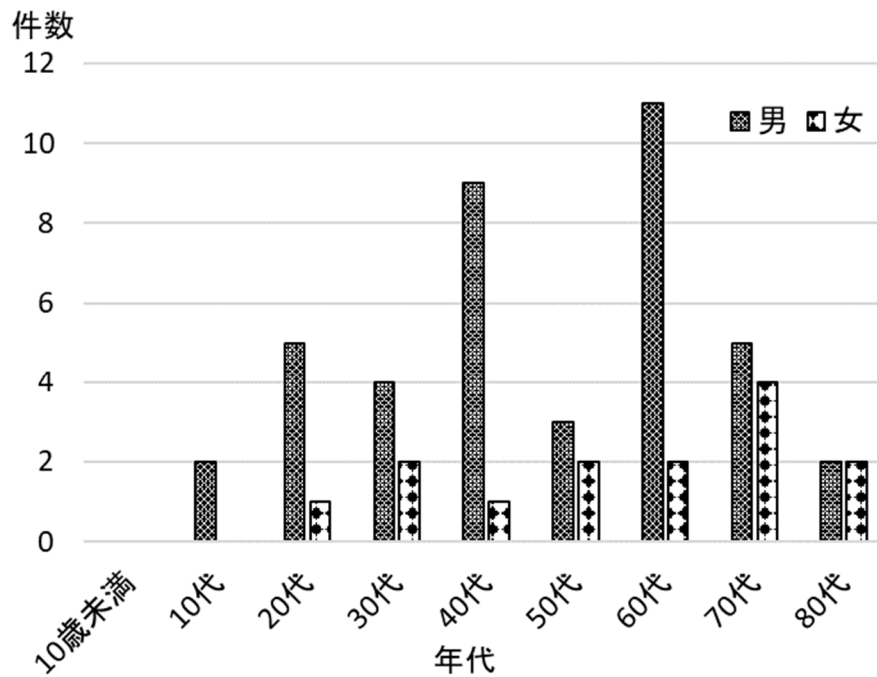


図-7 2019年年別ハブ類咬症件数(4種計)

# ハブ咬症患者調査票

連絡先： 沖縄県衛生環境研究所衛生生物班

電話： 098-987-8223

FAX： 098-987-8210

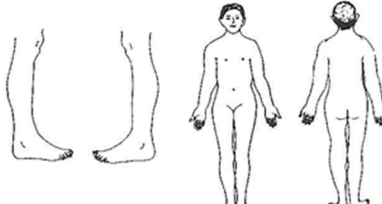
No. _____	
記入者名 _____	
I 病院名 _____	転院名 _____
II 患者名 _____ 年齢 才 _____ 1. 男 2. 女 生年月日 (明・大・昭) _____ 年 月 日生	
住所 _____ 市・町・村 _____ 番地 _____ 自宅電話番号 ( ) _____	
職業 _____ 職場電話番号 ( ) _____	
III 受傷日 _____ 年 月 日 _____ 午前・午後 _____ 時 分	
IV 受傷場所 _____ 市・町・村 _____ 番地 _____	V 受傷動機
0. 不明	0. 不明
屋内 1. 居間・寝室・その他 ( )	1. 就寝中 2. 室内におけるその他の活動 3. 用便中
2. 台所 3. 便所・風呂	4. 通行中
屋敷内 4. 庭 4. その他 (畜舎・便所・車庫・鶏小屋)	5. キビ刈中 6. 農作業中 7. 草刈中
田畑 5. キビ畑 6. バイン畑 13. 水田	8. ハブ取扱中・採取中
7. その他の畑 (イモ・野菜・不明)	9. その他 ( )
道路 8. 農道 9. その他の道路 (山道・部落内道路・不明)	VI 蛇の種類
原野 10. 原野・草地 11. 山・森林	ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ
12. その他 (川・沼・池・海岸・墓地)	アカマタ・わからない
VII 受傷部位	
0. 不明 21. 頭部 25. 軀幹	
上 左 1. 左第__指 3. 左手 5. 左前腕 7. 左上腕	
肢 右 2. 右第__指 4. 右手 6. 右前腕 8. 右上腕	
下 左 11. 左足第__指 13. 左足 15. 左下腿 17. 左大腿	
肢 右 12. 右足第__指 14. 右足 16. 右下腿 18. 右大腿	
VIII 応急処置	X 局所症状
処置方法	1. 疼痛 (+, -), 腫張 (+, -), 出血 (+, -)
A 1. 緊縛せず 2. 緊縛した 0. 不明	2. 牙痕数 ( )
B 1. 吸引せず 2. 吸引した 0. 不明	3. 今回の受傷状況 (被咬回数 1回 2回 3回)
C 1. 切開せず 2. 切開した 0. 不明	4. これまでに何回かまれたことがあるか (過去 回)
IX 受傷より血清治療までの時間	XI 血清について
0. 不明 1. 30分以内 2. 1時間以内	血清量 _____ ml
3. 2時間以内 4. 4時間以内 5. 4時間以上	注射法 0. 不明 1. 静脈注射 2. 局所注射 (受傷部)
6. 血清治療せず	3. その他 (受傷部以外の筋注など)
	4. 注射せず
XII 治療期間	
治療日数 0. 不明 1. 2~3日 2. 1週間 3. 2週間	
4. 1ヶ月 5. 2~3ヶ月 6. 3ヶ月以上	
入院日数 _____ 日	
XIII 予 後	
0. 不明 1. 完全治療・リハビリをした 2. 完全治療・リハビリをしない 5. 瘢痕形成	
7. 機能障害 (含切断) リハビリをした 8. 機能障害 (含切断) リハビリをしない	
10. 死亡 ( _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時)	

図-8 ハブ咬症患者調査票